



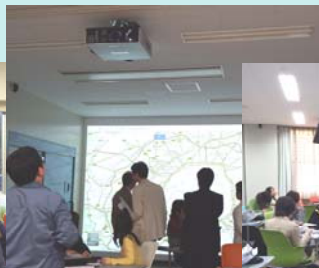
# 学生支援・教育支援の 充実に向けて

## 特集 1

### 次世代アクティブ・ラーニング 教室の導入 P2~P3

- 新しい授業の在り方
- アクティブ・ラーニングに取り組むにあたって
- 育てる教室

機器操作説明会  
の様子



## 特集 2

### 学習補助学生 Learning Supporter 制度導入 P4

- 活動内容
- 採用・活動の流れ

事前説明会の様子



教育支援センターでは、2014年度春学期に2つの新しい取り組みを導入しました。1つ目は、次世代アクティブ・ラーニング教室(湘南校舎:14号館14-105教室、16号館16-505教室)の運用。そして、2つ目は、理学部とともに学習補助学生 Learning Supporter(以下、LS)制度を試行的にスタートさせたことです。教育支援センターでは、これらをFD活動の一環として、学生支援及び教育支援の充実に向けた重要な取り組みと考えています。教育改革を進めるための様々な取り組みを今後も更に発展させるために、積極的な活用とともにご意見をいただければ幸いです。

今回の『COMMUNICATION NEWS UP』では、この2つの新しい取り組みについて、ご報告いたします。

# 次世代アクティブ・ラーニング教室の導入 湘南校舎

## 14-105教室(一般教室と併用)・16-505教室(アクティブ・ラーニング専用)

高等教育の活性化や教育の質向上を目的とした文部科学省：平成25年度「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」にて、東海大学が育成する「4つの力」を育成するための次世代アクティブ・ラーニング教室(湘南校舎：14号館14-105教室、16号館16-505教室)を整備いたしました。

この度、教育支援センターでは、完成した2教室の設備概要を紹介する説明会(2014年3月20日：学長室企画課共催)及び、次世代アクティブ・ラーニング教室 14-105教室機器操作説明会(2014年4月23日)、次世代アクティブ・ラーニング教室 16-505教室機器操作説明会(2014年4月8日)をそれぞれ開催いたしました。この2教室では、クリックを用いた双方向授業、学生同士のグループワーク、臨場感の高いマルチメディア教材の提示等が可能となっており、学士課程教育の質向上を目指した教室設備を検討するためのパイロット教室として、FD活動の拠点にもなるものです。今回は、設備の導入から携わっている白澤秀剛講師(情報教育センター所属、学長室付)の機器操作説明会でのお話をまとめました。

### 14-105教室 一般教室と併用 ハイブリット型

通常の授業で使われる教室にアクティブ・ラーニング設備を追加したパイロット教室

### 16-505教室 アクティブ・ラーニング専用

アクティブ・ラーニング専用のパイロット教室

## 次世代アクティブ・ラーニング教室導入について



白澤秀剛 講師  
(情報教育センター、学長室付)

### ■ 新しい授業の在り方

昨今、文部科学省や中央教育審議会等から、アクティブ・ラーニングと呼ばれる新しい授業の在り方が求められています。アクティブ・ラーニングとは、教員による一方的な講義形式の教育ではなく、自ら学んでいく学修者の参加を取り入れた

教授・学修法の総称で、非常に幅広い意味を持っています。その中で今、注目されているのが、アクティブ・ラーニングの支援に様々なICT機器を使うことです。また、初等中等教育

において、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」での電子黒板やタブレットを用いたアクティブ・ラーニングの実証研究が終わり、2014年度から本格実施という状況になっています。つまり、これからは、アクティブ・ラーニング機器を高校までの授業で使った生徒が大学に入学してくるという時代になりつつあることを意味し、本学でもICT機器を活用したアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れていくことになると思います。

### ■ アクティブ・ラーニングに取り組むにあたって

アクティブ・ラーニングに取り組むにあたり課題となるのは、ほとんどの教員が学生時代にアクティブ・ラーニングを経験していないということです。そのため、授業が上手くいくか、本当に知識が定着するのかという根拠が無い中での手探り状態からのスタートになります。不安な面もあると思いますが、今回整備した2教室には、授業の振り返りを可能とする収録装置が用意されていますので、自分のアクティブ・ラーニングが本当に効果的なのかについて、毎回確認しながら授業を進めることができます。また、授業が終わってから失敗だったというのは学生に申し訳が立たないため、収録装置の他にも授業の振り返りを可能とする教育支援ツール(ミニッツペーパー、授業アンケート等)を有効活用しながらアクティブ・ラーニングに取り組んでいただきたいと考えています。

そして、ここでもう一つ重要なことは、授業時間内全てをアクティブ・ラーニングにする必要はないということです。そのモデルケースとして、通常の講義もでき、なおかつ、アクティブ・ラーニングもできるハイブリット型教室を用意しています。また、アクティブ・ラーニングの設備を使用するだけで全ての問題が解決できるということではないことも理解していただく必要があります。アクティブ・ラーニングの効果は、授業内容や授業形態等により異なるため、アクティブ・ラーニングの設備を使用するだけで、全ての授業において学生の学びへの意欲が増して急に勉強するようになるということは基本的にはありません。そのために一律にアクティブ・ラーニングについて良い、悪いという議論をすることは適切とはいえないのです。そして、学修量は学修範囲×定着率で決まることを考えると、グループ討議のみで授業を構成して、学修範囲が5%で定着率が100%となることも、また、今まで通りの講義で100%の内容を教えて5%しか定着しないことも本意ではないため、このバランスについて、今回整備したアクティブ・ラーニング教室をパイロット教室として使いながら色々な先生方とディスカッションしていきたいと思っています。

## ■ 育てる教室

このような機器をできるだけ早く導入し使用していくことは大変重要な取り組みです。今回は、アクティブ・ラーニング実証試験教室の整備として、未来を見据えた次世代アクティブ・ラーニング機器が導入されています。このことは、教員のFD活動はもちろんですが、語学の授業にはこの機器が必要、工学系の授業にはこの機器が使い易いというような最適な機器の選定に繋げることや、授業の収録をする場合、どの

ようなアングルで撮影することが効果的なのかといった検証の目的もあります。そして、多くの教員から成功事例や失敗事例を収集し、教職員間で共有するための情報交換も行いたいと考えています。

今回アクティブ・ラーニング機器が整備された2教室は、これで完成ということではなく、これから多くの教員が使用し検証することで育てていくものです。今後は、教育効果を高められるよう、機器の導入を他の教室へも展開していくことを考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 主な導入設備

#### 14-105教室

##### □大型マルチメディア・超臨場感教材提示設備

###### 電子黒板(3面連結) 1式

3840×1024の解像度を持つ超大型1画面のプロジェクタとして、講義資料を投影することができます。また、電子ペンで操作したり、資料上に書き込みをしたりすることが可能です。



##### □学習状況把握設備

###### クリッカー(配付型) 65端末

選択式のアンケートや小テストを提示し、手元のボタンで回答することで、リアルタイムに結果を集計し、グラフで表示することができます。これにより、クラス全員と先生とのディスカッションを実現したり、リアルタイムの理解度把握が可能になります。

###### 講義収録装置(教員、受講者用) 2カメラ

基本はFD用のセッティングとなっており、講義中の教員の立ち振る舞いと同時に、学生の様子、提示中の資料が1画面になった動画を収録することが可能です。カメラのアングルを変更することで、予習、復習用の配信動画を撮影することもできます。

##### □グループワーク支援設備

###### グループワーク用机一体型可動式椅子 63席

###### グループワーク用可動式ホワイトボード 9台

##### □その他

###### マイク(収録用)

###### 書画カメラ 1台



#### 16-505教室

##### □大型マルチメディア・超臨場感教材提示設備

###### 電子黒板(独立) 3式

3面独立とすることで3種類の資料を同時に提示することができます。3つの電子黒板は1本の電子ペンを持ち替えずに操作が可能となうえ、同時に2本の電子ペンで操作したり、資料上に書き込みをしたりすることができます。



###### 超大型プロジェクタ 1式

床上約15cmの足下から頭の上まで230インチの大きさでフルハイビジョン画質の資料投影ができます。等身大で資料を提示するなど、臨場感の高い映像資料の提示が可能です。



##### □学習状況把握設備

###### クリッカー(学生証ICカード読み取り式固定設置型) 42端末

###### 講義収録装置(教員、受講者用×2) 3カメラ

##### □グループワーク支援設備

###### グループワーク用机一体型可動式椅子 42席

##### □その他

###### マイク(収録及び室内拡声用)

###### 書画カメラ 1台

###### ホワイトボード 1台



### 次世代アクティブ・ラーニング教室機器操作説明会(機器使用講習会)の開催について

機器操作説明会は今後も定期的で開催します。

開催の案内については、教職員ポータルフォーラムに掲載します。

※アクティブ・ラーニング設備を使用するには、各教室の機器操作説明会に参加する必要があります。



16-505教室機器操作説明会



# 学習補助学生 Learning Supporter 制度導入 湘南校舎

## 理学部・教育支援センターでの取り組み

2014年度春学期、湘南校舎18号館の完成に併せ、理学部と教育支援センターでは新たな取り組みとして、学習補助学生 Learning Supporter (以下、LS) 制度を試行的に導入しました。

LS制度とは、学生相互の学習支援体制で、相談者にとっては自主的な学びへと発展できるものとなり、相談を受けるLSにとっても教育的経験を積む機会となることが期待されています。



18号館1階 サイエンス・アトリウム

従来からの教員と学生の縦の関係から、新たに学生同士の横の関係が生まれ、学生間での同じ目線に立ったきめ細やかなアドバイスが可能となります。

2014年4月14日に事前説明会が行われ、LS第1期生として理学部所属の3、4年次生23名(数学科6名、情報数理学科1名、物理学科8名、化学科8名)が採用されました(秋学期については改めて募集予定)。早速、2014年4月21日の13時から活動が開始されています。

今回、理学部と教育支援センターでは、LSの応募資格として、「理学部在学学生(3、4年次生)で、人物・成績ともに優秀な学生であること。また、相談者からの質問や相談に対し、

### 学習補助学生 Learning Supporter 活動内容

#### ■活動内容

- ・実験科目に関するレポートの書き方
- ・基本的な学習についてのアドバイス
- ・キャンパスライフに関すること等の相談を受け付けます。



#### ■活動場所

湘南校舎18号館1階 サイエンス・アトリウム

#### ■活動期間

授業期間内の月曜日～金曜日 13:00～18:00  
※定期試験期間及び、その1週間前は活動を行いません。

#### ■配置人数

各時間：1名

(2014年度春学期)

### 学習補助学生 Learning Supporter 採用・活動の流れ

#### ■事前説明会、採用決定者説明会

採用前には、LSとしての心構え等についての説明会を開催し、十分な理解のもとに活動ができるように指導します。



#### ■活動中

理学部・教育支援センター教職員がLSの活動をサポートします。



活動中は、ネックストラップをつけています。



#### ■報告会(反省会)

学期の終わりには報告会(反省会)を開催し、LSとしての活動を振り返る機会を設けます。制度としての改善及びLSの成長をサポートします。

適切な対応や助言が丁寧に行えること。」を挙げました。1、2年次生がちょっとした不安や疑問等を、まず自分達の先輩であるLSに気軽に相談できる環境を提供したいと考えています。LSは18号館1階に設けられたサイエンス・アトリウムで活動し、1、2年次生が18号館の実験室で実験科目の授業を受けた後に、レポートの書き方や基本的な学習について相談に訪れることが想定されています。

LSの態度・基本姿勢は、カウンセリングの専門家ではないため、後輩の悩みや相談に対して同じ学生として寄り添い話し合える存在であることを認識し、良い方向に進んでいくための手助けをすることです。例えば、理工系の基礎的な学習(数学・物理・化学)の相談についてはS-Navi(6号館C棟1階)、キャンパスライフに関する相談はCLIC(8号館2階)を紹介することになります。

LS制度は始まったばかりです。この取り組みが成功し、将来的に大学全体で運用することができれば、「学びの場」の充実につながります。

まずは、18号館1階サイエンス・アトリウムでのLSの活動にご注目ください。